

安全管理



安全衛生管理方針

2012年度 安全衛生管理方針

[方針] 人命尊重を基本理念とし、労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、安全衛生管理水準の向上を目指す。

- 1.安全作業4つの誓い項目を遵守すると共に、危険の芽を摘み取り労働災害を防止する。
- 2.全員参加で、労働安全衛生マネジメントシステムを運用する。
- 3.労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

[目標] 1.重機・車両災害、墜落・転落災害、土砂崩壊災害、非定常時災害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。

- 2.災害事故件数10%減。(2011年度事故発生件数×0.9)
- 3.快適な職場環境づくりを推進し、健康管理体制を強化する。

2011年度の反省と2012年度の安全管理への取り組み

2011年度は前年度に続く2年連続「死亡災害ゼロの達成」というトップの強い意志のもと、繰り返し型災害防止対策の「安全作業4つの誓い」を安全朝礼・夕礼での全員唱和により、全社一丸となって死亡災害ゼロに取り組んできました。しかし、残念な事に、「安全作業4つの誓い」項目以外の場面で、作業進行に伴い発生した不安全状態(危険の芽)を発見できずに死亡災害が発生しました。この災害で危険の芽は作業に伴って変化していくことを思い知らされました。

工事着工前のリスクアセスメントで危険有害要因を特定し、低減策を実行したあと、朝礼時の危険予知ミーティング(KYM)で当日の行動目標を決めて作業に取りかかっていますが、それだけでは重大な災害は防げないことを痛感しました。

一人ひとりが危険を発見する目を養い、災害が発生する前に危険の芽を見つけ、是正しなければ防げません。

2011年度に発生した26件の災害の内訳は、労働災害が

NIPPO 安全作業4つの誓い	
重機・車両後退時 誘導合図を確認したか	ヨシ!
土砂崩壊 土止めはしたか	ヨシ!
転落・墜落 安全帯を使っているか	ヨシ!
非定常時作業 装置は止めたか	ヨシ!

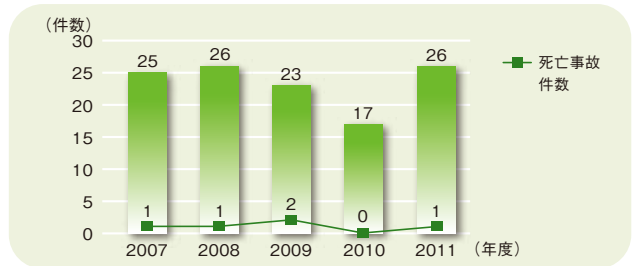
18件、交通事故5件、公衆災害0件、その他3件でした。労働災害18件中6件が「安全作業4つの誓い」を守らないで発

● 度数率・強度率

		2010年度	2011年度
NIPPO	度数率	0.43	0.70
	強度率	0.02	0.31
建設業	度数率	1.56	0.85
	強度率	0.61	0.21

度数率:100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で災害の発生頻度を表す。
強度率:1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で災害の重さを表す。

● 過去5年の災害件数(休業4日以上、物損50万円以上)



生しており、労働災害の3分の1を占めています。安全朝礼・夕礼時に全員で唱和することが、目的となってしまった結果であり、今年度は、唱和だけでなく完全実施を目標に活動していきます。また、交通事故は4件が前方不注意、1件が雪道でのスリップであり、「かもしれない運転」「指差し呼称運転」「運転中の携帯電話(ハンズフリー含む)の使用禁止」の徹底を図ります。公衆災害は、「公衆災害防止サイクルシステム」による事前調査の徹底・周知を全員で取り組んだ結果、発生しませんでした。

職場の安全・安心・信頼を勝ち取るために従事者全員が一丸となり、「安全作業4つの誓い」を確実に実行するとともに、現場進行に伴い発生する危険の芽を摘み取ることに重点をおき、「指差し呼称運転」を基本とした交通事故削減に努め、目標達成に向け活動していきます。

アンケートより

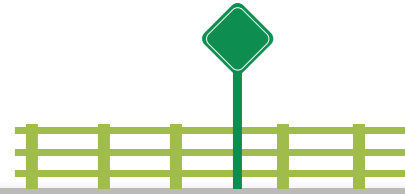
- 協力業者と一体となった安全管理体制の一層の構築、また、そのPRもしてはどうかと思いました。(取引先)
- 前年度の反省を踏まえ、今年度の取り組みが実際に現場で実行されている点に意気込みを感じます。(従業員)



私のCSR 中南信出張所 小沼幸訓

リスクアセスメントを行う上で基本となるのが5S活動です。同じ職場にいる全員が、自分の働く大切な場所を、より効率的かつ安全にしようとするのが大切だと思います。ルールが明確なほど、職場は効率よく安全で働きやすい環境になります。従業員の見本となるように5S活動を実践し、労災につながる危険の芽を減らす事に努めています。

環境マネジメントシステム



環境方針

環境保全活動の継続的改善に努め、「環境保全と経済活動の両立」する持続可能な社会の実現に貢献する。

- 1.環境法令、その他要求事項を遵守して、適正な事業活動を推進する。
- 2.環境と資源を大切に、「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を基軸とした環境保全活動を推進する。
- 3.事業活動を通じて汚染の予防に努めるとともに、環境負荷の低減を推進する。

平成24年4月1日
株式会社 NIPPO
代表取締役社長 **水島和紀**

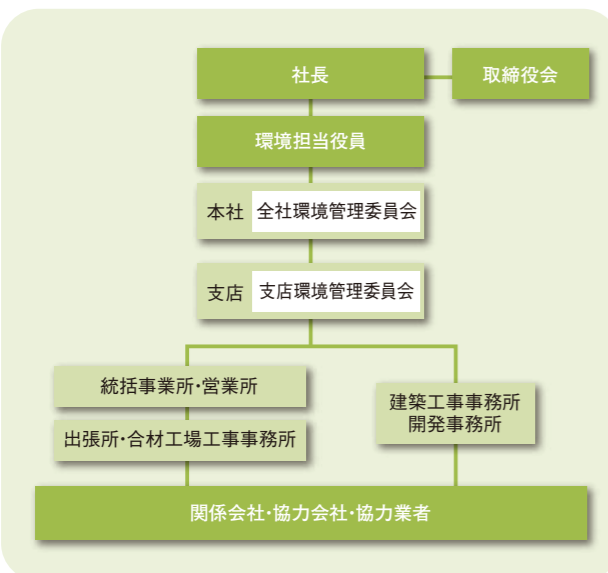
環境マネジメント体制

当社のCSRの中で、環境は最重要課題の一つです。

2011年4月の環境方針・環境保全活動項目に基づき、全事業所が年間の環境保全活動計画を策定し、現業事業所は地域の特性に応じた活動を推進しています。

また、全社および支店環境管理委員会において、環境に関する収集データの内容や公害の未然防止、関係法令の遵守、環境保全の提案などを審議しています。

● 環境マネジメント体制図



保全活動の結果と今後の取り組み

環境における大きな目標であるCO₂排出量については、総量で2009年度比6.8%の削減、売上高にて除した原単位においても、6.2%削減と計画を達成することが出来ました。

当社でのCO₂排出量の90%程度を占めているのが合材部門です。業界全体での製造数量の減少により操業度が低下している中で、原単位（製造数量）では目標の2009年度比2%削減に対して5.8%増加の結果となりました。しかし、操業度の低下にもかかわらずガス化など使用燃料の変更、高効率バーナーの導入など設備の改善により5年前の水準を維持しています。今後も様々な取り組みを継続してCO₂排出量の削減に努めます。

また、オフィス部門で取り組んだ電気使用量の削減については、2009年度比2%削減の目標に対し、18.4%削減と十分に目標を達成することが出来ました。

産業廃棄物の最終処分率については、2009年度に前倒しで3カ年計画を達成し、2011年度も0.90%と目標である「ゼロエミッション」を継続しましたが、前年の0.72%より悪化しました。これは、舗装・土木、エネルギー部門で少し悪化したことに加えて、種別的には廃プラスチック、ガラス・陶磁器くず及び混合廃棄物の比率が大きくなったことが原因です。今後も、混合廃棄物の排出量削減に努め、3Rの推進と分別の徹底に継続して取り組みます。

アンケートより

- 環境マネジメントシステムの内容について自社も見習いたい。（取引先）
- (2011年度報告にて)目標であるCO₂排出量削減について2007年度比6%削減し、計画を達成している点については評価できる。（従業員）
- (2011年度報告では)環境マネジメントにおいて、達成率60%未満が目立つのが気になる。（従業員）

● 2011年度の目標と実績及び2012年度の目標

◎100%達成 ○80%以上達成 △60%以上達成 ×達成率60%未満

区分	目的	対象範囲(組織)	2011年度の目標	2011年度の実績	評価	2012年度の目標
地球温暖化防止対策	CO ₂ 排出量の削減	全社(全部門)		総排出量 34.19万t-CO ₂ /年 (2009年度実績 36.67万t-CO ₂ /年)	2009年度比 6.8%削減	
			売上高原単位での削減 2009年度比 2%削減 (2009年度実績 130.56t-CO ₂ /億円)	2009年度比 6.2%削減 (122.5t-CO ₂ /億円)	◎	2009年度比 3%削減
		合材部門	合材製造(1t当たり)での排出量削減 2009年度比 2%削減	105.8%(33.4kg-CO ₂ /t) (2009年度実績 31.6kg-CO ₂ /t)	×	合材製造(1t当たり)での排出量削減 2009年度比 3%削減
		舗装・土木部門	売上高原単位での削減 2009年度比 2%削減	1.8%削減(18.1t-CO ₂ /億円) (2009年度実績 18.4t-CO ₂ /億円)	○	売上高原単位での削減 2009年度比 3%削減
		建築部門	売上高原単位での削減 24.0t-CO ₂ /億円以下	22.7t-CO ₂ /億円	◎	売上高原単位での削減 22.0t-CO ₂ /億円以下
		エネルギー部門	2009年度比 2%削減 (2009年度実績 6.0t-CO ₂ /億円)	6.7%削減(5.6t-CO ₂ /億円)	◎	—
		オフィス部門	2009年度比 2%削減 (2009年度実績 11,910MWh)*1	18.4%削減 (9,718MWh)	◎	2009年度比 3%削減
循環型社会の構築	産業廃棄物の削減	全社(全部門)	1.0%以下 (ゼロエミッションの継続)	0.90%*2 (ゼロエミッションの達成)	◎	1.0%以下 (ゼロエミッションの継続)
			混合廃棄物排出量削減 2009年度比1.0%削減 (2009年度実績3,006t)	17.5%増加(3,531t)	×	混合廃棄物排出量削減 2009年度比2.0%削減
		舗装・土木部門	最終処分率0.5%以下	0.63%	△	最終処分率0.5%以下
		合材部門	最終処分率2.7%以下	2.81%	○	最終処分率2.7%以下
		建築部門	建築面積当たりの最終処分率 13kg/m ² 以下	6.2kg/m ²	◎	建築面積当たりの最終処分率 一般工事 12kg/m ² 以下
	エネルギー部門	最終処分率3.0%以下	14.7%	×	—	
紙使用量の削減	オフィス部門	2009年度比 2%削減 (2009年度実績 187.9t)	4.2%削減 (180.0t)	◎	2009年度比 3%削減	
環境負荷の低減	環境技術開発の促進		1工法	1工法	◎	1工法
	環境配慮型工法*3の技術営業推進	全社	60億円	66.6億円	◎	60億円
	環境教育の推進		勉強会300回実施	277回(参加延べ人数4,181人)	○	—
	環境コミュニケーションの推進		CSRレポートの発行(9月)	CSRレポートの発行(9月)	◎	CSRレポートの発行(9月)

*1 1MWh=1,000kWh

*2 2008年度の建設副産物実態調査結果(国土交通省)での最終処分率は6.3%(発生量 6,380トン)最終処分とは再資源化やサーマルリサイクルされないで、単純焼却及び埋立処分された量
最終処分率=最終処分量/総排出量…全て重量換算

*3 環境配慮型工法とは「CO₂排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」及び「土壌浄化」を対象とする。



私のCSR 道北統括事業所 池田正昇

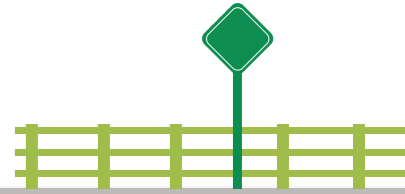
当社における環境問題には、廃棄物の適正処理、自然環境(大気、水質汚染)対策などがあると思います。従業員一人ひとりが正しい知識(関係法令等)と理解を持って、NIPPOの人間として環境問題に取り組み、意識向上に努めていきたいと思っています。



私のCSR 関西支店 北山治

関西支店では、2011年度の内部監査において部署長全員を内部監査候補者に任命し、他部署の監査を通じて自部署との温度差をなくすことを目指しました。内部監査を実施することでおのずから社内規程類に目を通し、理解度の高い状態で効果的に実施することができました。

舗装事業における環境保全活動



環境型リサイクルへの取り組み

アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

■ 他産業副産物のリサイクル

当社は1950年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在の技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に158カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち150工場でアスファルトやコンクリートのがれき類（建設副産物）を受け入れ、158工場で積極的に骨材として再利用し、再生合材、再生路盤材として製造・販売しています。

再生合材の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効活用を推進しています。

■ 他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ溶融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確立しました。

現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用するなどの積極的な活動を行っています。

アスファルト合材工場での環境配慮

アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト合材等を製造していますが、周囲の環境に悪影響をおよぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

■ 二酸化炭素排出量の削減

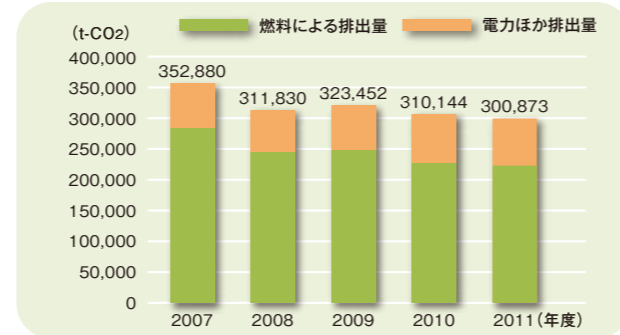
アスファルト合材の製造に伴って生じる二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するため燃料を重油類から、都市ガスや灯油等へ徐々に切り替えを進め、省エネルギー型の設備や機器類

も積極的に配備しています。2011年度末現在、都市ガス化した合材工場が13カ所、省エネ型の高効率バーナ(ハイブリットバーナ:空気比が低く、広範囲の燃焼制御が可能)を導入した合材工場が50カ所となっています。2011年度には、岡崎合材工場で都市ガス化と省エネ型バーナの導入を実施しましたが、従来の二酸化炭素(CO₂)排出量を約30%削減が可能なことから、今後も計画的に増やしていきます。



岡崎合材工場に導入した都市ガス省エネ型バーナ

● 合材工場CO₂排出量の推移



● 燃料使用によるCO₂排出量の推移(全社)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
CO ₂ (トン/年)	282,672	242,174	245,271	226,955	224,043
原単位(kg/合材トン)	24.1	24.2	23.9	24.4	24.9
工場数	162	162	157	157	158

2011年度は、製造数量の落ち込みのため排出量は減少しましたが、操業度が悪化したため、原単位の排出量が改善できませんでした。

■ 大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令規準より高い性能の集じん機を整備したり、製造工程の様々な箇所、粉じんを飛散させないような設備等を設けるなどの対策を行っています。

● アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量 (単位:トン/年)

種類	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
窒素酸化物(NO _x)	147.9	197.0	103.8	96.8	114.0
硫黄酸化物(SO _x)	249.4	124.5	129.3	125.1	91.7
ばいじん	97.6	63.3	64.6	57.0	50.5

上位50工場のサンプリングからの推計でサンプル率は、約60%となっています。

■ その他の環境対策

住宅地に接する合材工場において、騒音や粉塵の発生に対する苦情のケースがいくつかありますが、環境整備につとめることで、大幅な改善を進めています。また最近、アスファルトを加熱した際の悪臭に関する苦情に対処するため、都市部にある主要13工場には、脱臭炉を整備しています。

まだまだ、問題の全てが解決できていませんが、プラントの更新時期に合わせ、環境対策型設備の導入を図るなど、環境整備・環境投資を続けています。



プラントを全閉型のシェルタータイプとし、都市ガスを燃料とする設備を導入し、2011年度に環境整備を図った例:岡崎合材工場

舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施工機械等の騒音や排ガス、CO₂・産業廃棄物の排出などがあります。

■ 施工機械の騒音・排出ガス対策

施工機械を順次、環境負荷の少ない排ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2011年度までに、保有機械の88%を排出ガス対策型に、87%を低騒音型に切り替えました。

対策済みの施工機械は、主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

● 施工機械の環境対策整備状況 (台)

	2009年度		2010年度		2011年度	
	保有	対策率	保有	対策率	保有	対策率
排出ガス対策型	208	88%	170	90%	113	88%
低騒音型	323	83%	296	84%	124	87%

■ 二酸化炭素排出量の削減

施工機械や資材を運搬するダンプトラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に低燃費型に切り替えています。

■ 産業廃棄物の排出管理

全ての部署、事業所で発生する産業廃棄物の分別を徹底するとともに、部署毎に排出量を種類別に管理し、再資源化・省資源化計画を立てて実行しています。産業廃棄物量に占める最終処分量の割合は、2009年度が0.94%、2010年度が0.72%、2011年度が0.90%と目標の1.0%以下(ゼロエミッション)を継続して達成しています。

輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプトラック等の燃料消費に伴うCO₂の排出と騒音です。

アスファルト合材の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送へ切り替えを進めており、一定量(全骨材使用量の約5%)を海上輸送にて行っています。2007年度34万トン、2008年度27万トン、2009年度25万トン、2010年度28万トン、2011年度26万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。

また、ダンプトラック使用時には、アイドリングストップやエコドライブに努めるように、運送会社を指導しています。

アンケートより

- 骨材を温めるドライヤなどから発生する余熱を再利用できたらCO₂削減になると思います。(従業員)
- 他産業から出る副産物を舗装材として使用するのはいいと思う。(従業員)
- 合材工場の大気汚染物質排出量が5年で約6割に減っているところがよい。(従業員)



私のCSR 四国支店 川原善尚

施工時に情報化施工を導入して施工性向上を図るとともに、作業員と重機の近接作業を少なくすることにより安全性の向上を図るなど、新しい技術を取り入れたり、現場に即した労働安全衛生マネジメントシステムを運用したりすることで、日常の安全管理の向上に努めています。

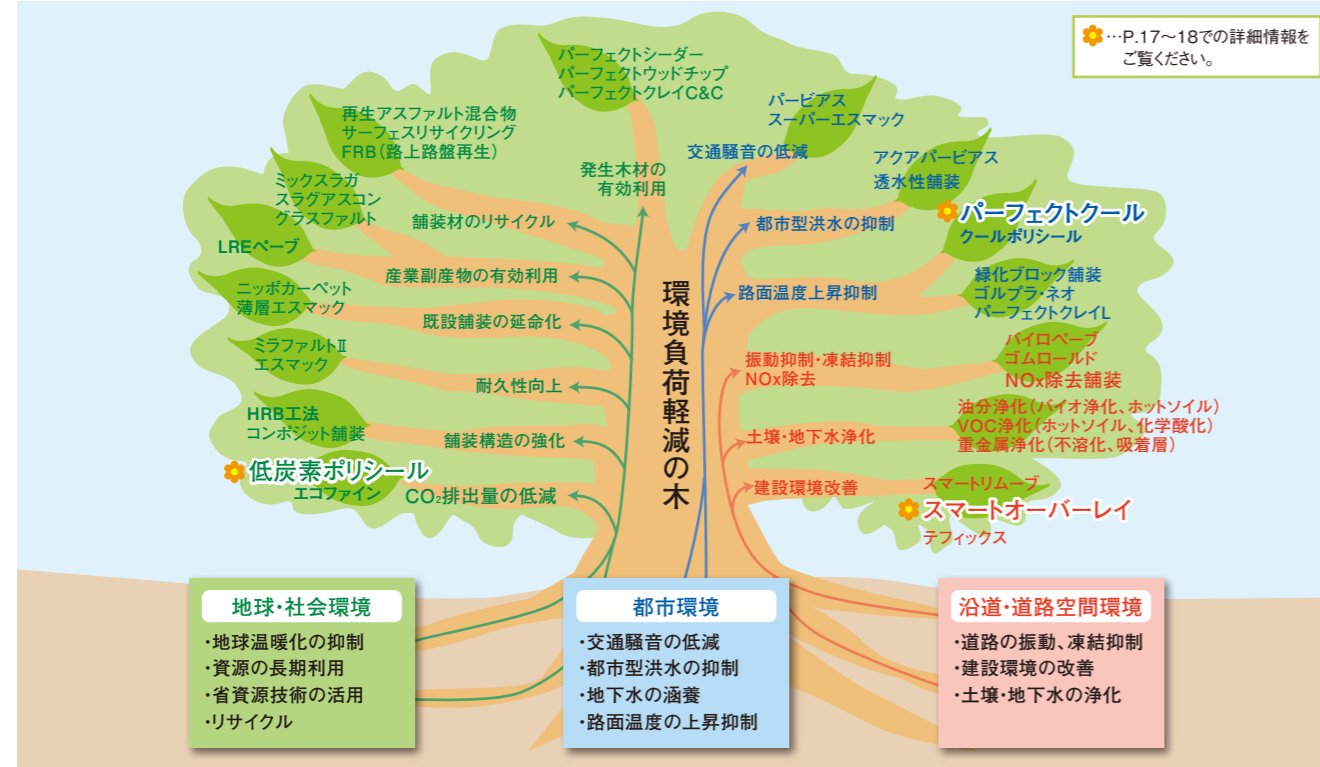


私のCSR 宮城統括事業所 野口大輔

私は2011年5月より、主に宮城統括管内並びに高速道路工事の総務業務に従事しています。全国各地の従業員が東北管内へ応援に来ていますが、被災地域の復興はなかなか進まない状況です。繁忙を言い訳にすることのないよう、常に関係法令の遵守を意識しながら、各種契約や労務管理業務に従事しています。

舗装事業での環境技術

● 環境舗装・資材のラインナップ



低騒音型床版上面増厚工法 スマートオーバーレイ工法

年々増加する交通量と車両の大型化により、橋梁コンクリート床版の疲労による損傷が進行しています。この対策としてコンクリート床版の厚さを増し、強度や耐久性を向上させる床版上面増厚工法が施工されていますが、都市部の施工においては沿道住宅街への騒音対策、道路規制時間の短縮、狭い規制エリア内における作業等、厳しい条件が求められます。

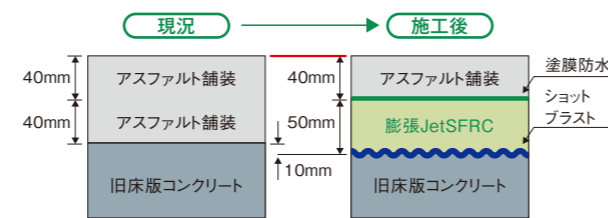
スマートオーバーレイ工法は、小型軽量の低騒音コンパクトフィニッ



施工状況

シャを用いることにより、従来よりも低騒音かつ短時間で施工する工法です。増厚するコンクリートに「膨張剤入り鋼繊維補強超速硬コンクリート(膨張JetSFRC)」を使用することもできます。

● 施工断面例



CO₂排出量を低減した半たわみ性舗装 低炭素ポリシール

半たわみ性舗装(当社工法名:ポリシール)は、セメント、珪砂、ポリマー等と水を混合して製造したセメントミルクを開粒度アスコンの空隙に注入した舗装のことです。またセメントミルクの製造は、使用する全ての素材を現場で計量・混合する素材計量方式と、あらかじめ水以外の素材を所定割合に配合したプレミックス材を用い、現場ではプレミックス材と水だけを計量・混合するプレミックス方式とがあります。

低炭素ポリシールは、このプレミックス材およびセメントミルク製造時に発生するCO₂排出量を大幅に削減した半たわみ性舗装です。

低炭素ポリシールのCO₂排出量は12,835g-CO₂/m²で、当社従来工法(15,145g-CO₂/m²)に比べ、2,000g-CO₂/m²(13%)以上削減しています*。

低炭素ポリシールの施工には、専用のプレミックス材「低炭素ポリバック」(P.5の写真参照)を用います。低炭素ポリバックは、CO₂排出量が比較的多い通常セメント(約800g-CO₂/kg)の配合量を減らす一方、セメントミルクが所要の品質を満足するよう、自硬性があり、しかもCO₂排出量が低い特殊なセメント「低炭素セメント」(約100g-CO₂/kg)を配合しています。

また、低炭素ポリシールは当社の自主基準を満たす環境対応舗装で、環境省の「環境ラベル等データベース」に登録されています。



施工状況

*開粒度アスコン、プレミックス材およびセメントミルク製造時のCO₂排出量(施工時のCO₂排出量は含まず)



●株式会社 NIPPO 製品の環境情報
当社自主基準を満たす環境対応舗装シリーズにこのラベルを付与します。
●この製品が着目する環境影響
CO₂削減:製造・施工段階で従来比*1
2.0 kg-CO₂/m²(13%)以上削減。
●削減手段
低炭素タイプの半たわみ性舗装用プレミックス注入材「低炭素ポリバック」を使用した半たわみ性舗装。

遮熱性舗装「パーフェクトクーラー」 第24回世界道路会議で ベストイノベーション賞を受賞

当社が世界へ先駆けて開発した遮熱性舗装「パーフェクトクーラー」が世界道路協会(PIARC)が主催する第24回世界道路会議(2011年9月、メキシコシティ)において、「ヒートアイランド現象の最も革新的な解決方法であり、都市環境の向上が実証されている」と評され、最優秀賞に相当するベストイノベーション賞を受賞しました。



表彰状

アンケートより

- 大規模地震が危惧される昨今、(昨年度のレポートで紹介されていた)HRB工法の開発は素晴らしいと思います。早く公共事業等に採用されることを期待します。(取引先)
- 舗装事業での環境・安全技術は高いレベルで考えられていると感じた。(取引先)
- このたびの地震・津波等自然災害の復旧に、今まで取り組まれてきた環境・安全技術や様々な工法がより活かされて、社会に役立つ会社になることを望みます。(従業員)



私のCSR 新潟統括事業所 緒方徹平

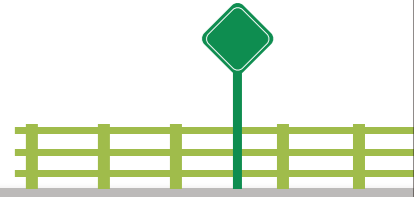
私たちの事業所では、近隣のゴミ拾い・側溝掃除等の清掃活動、冬場は町内周辺の除雪作業を通じて、地域への社会貢献を目指しています。また、「エコキャップ推進協会」の活動であるペットボトルのキャップ回収への取り組みにも積極的に参加しています。



私のCSR 御殿場合材工場 伊藤昭広

職場における人間尊重とは従業員の作業環境を整え明るく活発な事業所を築き個々の能力を引き出す事だと考えます。積極的なコミュニケーションで従業員一人ひとりの個性をよく理解し働きやすい職場、活気ある職場づくりに努めています。

戦略事業における環境・安全配慮



建築事業における環境・安全配慮

建築事業では建物の計画・設計段階から環境負荷低減に取り組み、施工段階では産業廃棄物排出量およびCO₂排出量の削減、社会貢献活動の推進など、具体的な数値目標を設定し環境保全活動の強化を図っています。

■設計段階での提案事例(太陽光発電)

計画・設計段階では太陽光発電、壁面・屋上緑化、高断熱化、LED照明およびLCCO₂*の排出削減などの提案、採用を推進しています。また、環境関連の技術開発として工業化工法、アルミプレース耐震工法に取り組みんでいます。



屋上太陽光発電設置事例

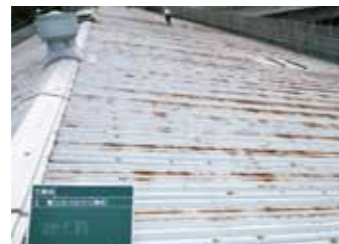
*LCCO₂:ライフサイクルCO₂

■改修工事での事例(建物の環境負荷低減)

工場改修工事において、屋根の断熱防水工法・遮熱塗装を提案し採用されました。工場の冷暖房など空調負荷低減・CO₂排出量削減に効果を上げ高い評価を頂いています。また、既存屋根撤去が不要な工法でもあり産業廃棄物の発生抑制にもつながりました。



屋根断熱防水施工後状況



屋根改修前状況

■建設現場での安全・社会貢献活動の取り組み

安全管理および社会貢献活動の一環として建設現場への

AED設置を推進しております。第三者を含め、緊急事態が発生した場合の準備として消防署主催の普通救命講習を随時受講しています。



普通救命講習受講

環境事業(土壌浄化事業)における取り組み

環境事業部では土壌環境に関する課題をお持ちのお客様からご相談を受けた場合、トータルエンジニアリングとして、その調査、分析、汚染の評価、対策計画、工事および監視に至る一貫したシステムサービスをお客様の立場に立ってご提供しています。特に浄化工法の選定にあたっては、敷地面積、工事期間、周辺環境など様々な要素を考慮する必要があり、数多くの実績(2012年3月末現在、土壌対策工事実績876件、土壌調査実績2,195件)から環境・安全に配慮した設計施工を行っています。

■浄化工事における環境配慮

汚染土壌の浄化工事を行う際、汚染物質の飛散や揮発を防止することについて、お客様、関係行政および近隣住民の方々から求められることが多くなってきています。当社では、これらのご要望に、施工場所に大型 TENT を設置し TENT 内作業とすることや搬出土壌を全て袋詰めしてから運搬すること、さらに敷地境界部においてローボリュームエアサンプラーによる浮遊物質中の汚染物質量を定期的に測定する管理手法などをご提案しています。



ローボリュームエアサンプラー

不動産開発事業における環境・安全配慮

不動産開発部門では、環境と安全に配慮し、長く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。宅地建物分譲事業のほかに、下記3つのシリーズを展開しています。

・マンション分譲事業

5つの価値を追求するル・サンクシリーズ

・戸建住宅分譲事業

自然環境と街並み調和を追求するグラチアシリーズ

・不動産賃貸事業

資産価値を追求するアーバスシリーズ

住宅商品の提供にあたっては、「お客様が住んでよかったと思っただけの商品を提供する」「企画では、単に規格品でなく、心を込めた手作りプランを基本とし、絶えず先進のシステムを開発する」「良いものを割安な価格で提供する」の3点を基本方針として取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、「環境:エコ商品の採用、省エネルギー住宅、24時間換気システム」「安全:セキュリティ、免震・制震・耐震構造」「管理:維持管理の取り組み強化による資産価値の向上」の3点を重点項目としています。

■安心・安全を追求した街づくり

全国でマンション分譲を4,800戸、戸建住宅分譲を4,400戸の供給実績があります。基本計画に免震・制震・耐震構造の採用を検討し、震災に強い街づくりを目指します。

また、省エネ対策として「LEDの採用」「電気自動車対応充電装置の設置」「太陽光発電システムの採用」「省エネ型給湯器の採用」「高断熱仕様資材の採用」といったエコ仕様を、マンション・戸建住宅・ビル建設事業に積極的に展開しています。

■「ル・サンク 大崎ウイズタワー」の事例

大崎駅周辺は東京都が策定した7大副都心構想の一つとして開発が進められています。弊社は、この大崎駅周辺開発エリア(都市再生緊急整備地区)において大崎駅西口南地区第一種市街地再開発事業に参画し、現在販売中である「ル・サンク 大崎ウイズタワー」では、安心・安全を追求した街づくりを行っています。

<免震構造>

建物を長く安全に支え、大地震にも安心を確保する先進の免震構造を採用しています。基礎となる2階部分に鉛プラグ入り天然積層ゴムなどの免震装置を設けることで、地震による水平動が直接建物に伝わらないように設計しています。また免震構造は、家具などの転倒、ガラス・タイルの破損や落下を防ぎやすく、二次災害の面でも安心です。

<非常用発電>

地震などの災害時に万一停電しても、共用部の防災設備・保安設備に電力供給できるよう36時間稼働の非常用発電機を設置しています。停電後もエレベーターを動かし避難を容易にします。また、給水や消火設備などへの電力を確保し、二次災害を抑制します。

<各階防災倉庫>

4階以上の専有部各フロアに地震などの万一に備え、保存食・飲料水・簡易トイレを備蓄した防災倉庫を設置しています。



(ル・サンク 大崎ウイズタワー完成予想図)

<LED照明>

共用部・専有部にLED照明を設置(一部を除く)しています。省エネルギー効果が高く、ランニングコストを抑制しています。

アンケートより

- 不動産開発で、先進的なシステム開発やエコの仕様化、免震・耐震構造など土壌環境に関する調査・分析を行っていることは評価できる。(取引先)
- 自分の会社がCSRについて、これだけ考え、活動しているという事は自信になります。(従業員)



私のCSR 尾道・松江自動車道竹地本谷舗装工事事務所 武内健一郎

単独有期工事では中国地方各地の様々な協力業者に施工をお願いしています。その協力業者の従業員一人ひとりにまで「確かなものづくり」の意識を高めるよう、日々のミーティングや現場作業を通して指導しています。



私のCSR 広島出張所 岩田卓郎

私の事務所では月1回清掃活動を行っています。事務所を出て左右200mの区間を10数名が手分けしてゴミや雑草の除去を行います。近所の子供も声をかけてくれ、普段汚いおっちゃん、その日はばかりはいいおっちゃんに変身です。毎日車でしか通っていない道路を歩く事で新しい一面に気付かされ、愛着もわいてきます。